

2020年7月26日

エウレーカ！

全国の新規感染者数が漸増・少しずつ増え続ける中で、改めて一人ひとりが基本的な感染予防対策（手洗い、3密を避ける、身体的距離）を取ることが求められています。誰もが予想しなかったパンデミックの長距離走を歩むわたしたちは、互いに励まし合いながら〈キリストのことばのうちに喜びと光を見つけることができますように〉（「集会祈願」より）祈りたいと思います。

今日のマタイ福音書では、大変短い二つのたとえ話一畑に隠された宝と真珠―が描かれています。本当にわたしたちの人生にとって欠くことのできないことは一体何か、黙想することができるでしょう。

「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」（マタイ13・44）

この「見つけた人」がどのような職業であったのか、農夫なのか、貧しい人か、どれくらいの時間と労力をかけてその「宝」を探し求めていたのか、たとえ話は詳細を一切語りません。しかしその簡潔さが却<かえ>って、恐らく気が遠くなるほどの長い年月と労力を注ぎ、その「宝」を探し続けていたに違いない、と読者に示しているかのようです。また「持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う」という極端な行動からも、長年探し続けたものをようやく発見した人の大きな喜びを読み取ることができます。

「また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠を一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。」（マタイ13・45）

この商人は、正確には貿易商であったと説明する聖書学者もいます。たった一つの貴重な真珠を探し求めて長い旅を続けていたのでしょう。多くの貴重な品を自分の目で見て、識別し、財産も持っていたと想像できますが、その「真珠」を探し当てると「持ち物をすっかり売り払い、それを買う」という大胆な行動に出ています。

二つのたとえ話に共通することは、他の一切を失ったとしてもこの真珠と畑の宝さえあれば、自分は生き延びることができる、そう確信させるものがそこにあったということでしょう。何か新しい発見や発明をした時に発する言葉としてよく知られているギリシア語の「エウレーカ！」（わたしは見つけた!）という言葉を思い出しますが、わたしたちの信仰生活にとってもキリストのうちにある喜びを「探して見つけ出す」という姿勢は不可欠なものでしょう。

今日の答唱詩編119は、人が見いだすべき宝、それはキリストのことばであり、「あなたのことば」「あなたの教え」「あなたのすすめ」「あなたの定め」こそ「すばらしい宝」であると静かに力強く歌っています。災害やコロナ禍にあっても、キリストに希望を置き、日々、生きる喜びを発見することができますように。

「あわれみ深い人は幸い。
その人はあわれみを受ける。
心の清い人は幸い。
その人は神を見る。」
(マタイ5・7-8)

カトリック立川教会 主任司祭
東京教区 ヨゼフ 門間 直輝

●年間第17主日聖書朗読箇所：

- ① 列王記上3・5、7-12
—答唱詩編—詩編119より
- ② ロマ書8・28-30
- ③ マタイ13・44-52